

銀賞（神戸海事広報協会会長賞） 3点

「海を守る」

淡路市立 学習小学校 5年 東根 璃苑

わたしにとって海は、わたしたちの体を元気にしてくれる存在です。なぜかという
うと、もし海が無かったら雨がふらないので水を飲めません。それに、魚や、海草、
塩もありません。だから、元気にしてくれる存在だと思いました。

私の住んでいる淡路島は海に囲まれています。なので、私の学校では、漁業に関
する、校外授業がよくあります。

その一つがため池の水を海に放流し、海の水をきれいにする見学です。大きな池
がぽっかりあながあいたように変わっていました。

土手の上には、ブルーギルなどの外来種や、ニゴイやフナなどがたらいの中に捕
獲されていて、ふだんはめったに見ない池の生物をみる事ができました。池の生物
にはかわいそうな事だけど、この水のおかげで、プランクトンがぞうしょくし、海
に栄養が写えられ、海の生物がより良く育ち、この町ののりも、おいしく育つ事
でしょう。実際にこの放流のおかげで、この年ののりは、色やつやが良く、立派な
のりがとれたそうです。そして、放流する前よりも、海がきれいになったと聞いて、
漁師の人たちも喜ぶし、私もうれしくなりました。

EMだんご作り体験もしました。EMだんごは、黒ずとび生物をまぜただんごで
す。まるめただんごを数カ月置き、かんそうさせた後、海へ投げ入れました。こう
する事で、び生物が海のごれをへらしてくれるそうです。これで仮屋の魚達が、
病気にならずに元気に育ってくれるといいです。

日本の海は、工場の汚水や、身近では、私達が、いつも使っているシャンプーや
食器洗済などで日々汚しています。ヒラメの放流体験で栽培漁業を勉強しました。
人の手で、大きくなるまで守ってやり、その後、生活するのに適した場所に放して
やがて漁かくする方法です。この体験で、自然に魚が育つことはとてもむずかし
ことだと思いました。

私のおばあちゃんの家に行くと、いつも新せんな魚をさばいておいしい魚をごち
そうになります。いつまでもおいしい魚がいただけるように海を守っていかなく

ばと思います。

豊かな水産しげん維持のために、活動している人達がいるのだと分かり、私も大人になったら、協力していきたいなど思いました。

私の住んでいる淡路島だけではなく、世界の海が、いつまでも、美しい海でありつづけてほしいです。

「海は大切」

淡路市立 学習小学校 5年 土井 結月

私は、今年の夏休みに、兵庫県のうすがうらという無人島に遊びに行きました。私は楽しみだったけど、海は苦手なので初めはあまりいい気もちではありませんでした。私が海を苦手なのは、プールとはちがって石がごつごつしていて、けがしやすいし、目に海水が入るとしみていたいからです。それに、海はごみがういていて、あまりきれいじゃないと思うからです。それがいやで、私はプールばかり行っていました。

無人島へは、船で行きました。無人島に着くと、海の水は私が思っていたのと同じ、とてもきれいでいろんな人が泳いでいました。私達はすぐに海に入りました。海にはゴミもなかったし、海はすきとおっててすごくきれいでした。シュノーケルをつけて、うきわにのりながら海の中を見ていました。海の中には、フグなどの魚や海草がいっぱいいました。海のおくに行くと、岩にあながあって、その中にはウニがいました。ウニはけっこういたけど、おくの方にあつたのでとれません。その岩の近くにはどうくつがありました。入らなかったけど、中になにかあるのか気になりました。無人島では、自分がとった魚を焼いている人達がありました。魚はもぐらないといけないところにいたので、つかまえることは出来なかったけど、やどかりがたくさんいました。ねえちゃんはやどかりを持って帰ろうとしたけど持って帰れませんでした。そのやどかりはかわいかったです。だから、海にある石で囲まれているところにかえしました。その近くには小さいかきがいました。無人島で遊んでいるとあっという間に時間がすぎました。

私は、無人島に行くと海が少し好きになりました。それは、無人島の海はすきとおっていて、とてもきれいだし、魚がたくさんいたからです。今までいった海と比べると、全然ちがいました。私の住んでいる淡路島の海は昔と比べてよごれているとじいちゃんが言っていました。昔のように海がきれいになってほしいです。私が海に行ったときにはごみはすてずに持って帰り、少しでも海をきれいにしたいと思います。私は無人島に行って、海は大切ということを学びました。私はこれから海を大切にするため、ごみは自分で持って帰ったり、自分ができることはしっかりして、無人島のような海に淡路島もしたいと思いました。

「海辺のごみ拾い」

高砂市立 米田小学校 6年 水落 拓海

ぼくは、去年から高砂市陸上教室に入っています。毎年夏の合宿で向こう島公園、海の浜辺のそうじをします。去年は浜辺にたくさんのごみが落ちていました。ごみには、カンやがれき、ボールやビンなどがありました。ぼくが立っている場所から回りを見わたして見ても、たくさんのごみが落ちていることが分かるほどでした。

そのごみを見てぼくは、なんだかとてもいやな気持ちになりました。このごみのせいで海や砂浜がよごれてしまいそれが原因で環境汚染にもつながり海にいる魚や鳥や海水や浜辺がよごれ死んでしまうのが悲しく思いました。ぼくはそうならないために、今自分ができる事、ごみ拾いを一生けん命やろうと思ってたくさん拾いました。

去年ならごみ拾いの後、海に入ってたくさん遊びましたが、今年は海がきたなくにおいもきついで海には入りませんでした。そんな海の中にも、小さな魚や貝、海そうも見つけることができました。海がもっときれいで、生き物がたくさんいる海になれば人も増え楽しいと思います。

ぼくが小学校低学年の時、五月の始めごろよく塩ひがりに行っていました。塩が引くと沖の方まで行き、夢中で砂をほって、貝をバケツいっぱい取って家族で楽しんでいた海はとてもよかったです。

海でまた家族で塩ひがりやつりをしたり船に乗ったり、海の中で泳いだり砂浜で大きな山を作って遊んだり海でいろんな遊びができるととても楽しいです。

去年と今年で行った合宿で浜辺のごみ拾いをしてみて海の大切さを考えたり、海で遊ぶ楽しさを前よりも良く知ることができて良かったと思います。

自分からだったり、自分一人だとごみが落ちていても拾おうとすることは、なかなかできないけど、これからは海だけじゃなく自分の見える所に落ちていれば拾おうと努力しようと思います。それで海や町がきれいになればとってもうれしいです。